

1st day
5.19 Sat.

第31回大会 特別報告

■時間 / 16:30 ~ 17:00 ■会場 / 4F 大研修室

テーマ●「人は2度死ぬ—自分史は『紙の墓標』」

三浦清一郎

2nd day
5.20 Sun.

第31回大会 特別企画

■時間 / 9:00 ~ 11:30 ■会場 / 講堂

インタビュー・ダイアログ

1部「通学合宿等『生活体験プログラム』の意義と方法」

現代は利便性・効率性を「売り」とする時代である。また、人権の時代は、子どもの欲求を重視する過保護の時代にならざるを得ない。必然的に現代っ子は実生活の「労働」も「困難」も「他者との共同」も知らない。地域の教育力は衰退し、生活体験を教えるプログラムは辛うじて「通学合宿」等に残されるのみとなった。その意義と方法を問いたい。

<登壇者プロフィール>

●朝日 文隆

(福岡県みやま市立江浦小学校 校長)



みやま市立江浦小学校校長。学校主催の通学合宿は平成8年度以来16年目を迎える。現在の参加率は1年生～6年生迄ほぼ100パーセント。子どもが企画する「協働生活体験学習」のプログラムを実施する。「失敗は教育効果を上げる」という視点に徹し、「大人は手を離し、目を離さず」を指導方針にしている。

●鎌田 清一

(福岡県遠賀町教育委員会生涯学習課 元社会教育係長, 現在 高校総体推進係長)



通学合宿は平成8年度から3小学校区単位での持ち回りで開催。現在は町単位で開催している。「生活まるごと体験」を掲げ、通学合宿OB・OGを含む「ボランティアとの協働」を基本理念とし、日程は6泊7日、料理、洗濯、掃除など生活そのものを基本プログラムとしている。

●相戸 晴子

(NPO法人子育て市民活動サポートWill 代表理事)



「NPO法人子育て市民活動サポートwill」代表理事。一貫して子育てグループ活動に関わり、親子の地域参加支援にこだわり続けている。近年はアウトリーチ型の研修会、サロン、交流会などを実践している。2002年日本生活体験学習学会に加入、通学合宿の調査研究活動に参加、子どもの生活体験にはプログラム実践とノンプログラム実践の両輪が必要だと考えている。